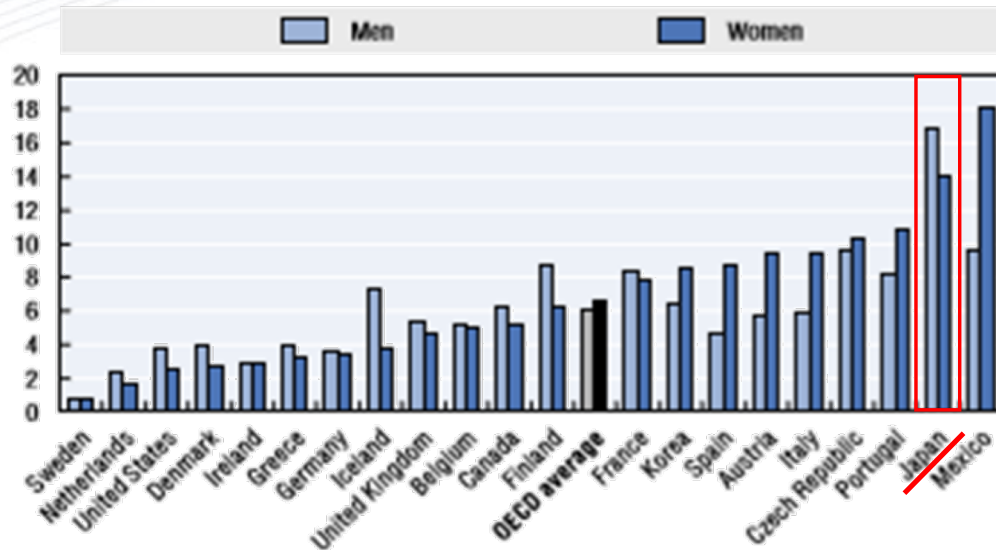


遊びノ
ススメ

いちかわTMOアドバンス講座
原 貴幸

Percentage of persons who rarely or never spend time with friends, colleagues or others in social groups



引用：OECD（経済協力開発機構）2005年調査
 「ほとんど、もしくはまったく友人や同僚もしくはほかの人々と時間を過ごさない人」の割合は**日本の男性では約17%**（女性は14%）で、21カ国平均の3倍近く。**調査21カ国の中でトップ。**

- ・ **世界一孤独な日本のオジサン**
岡本 純子 著
- ・ **中年クライシス**
河合 隼雄 著

孤独

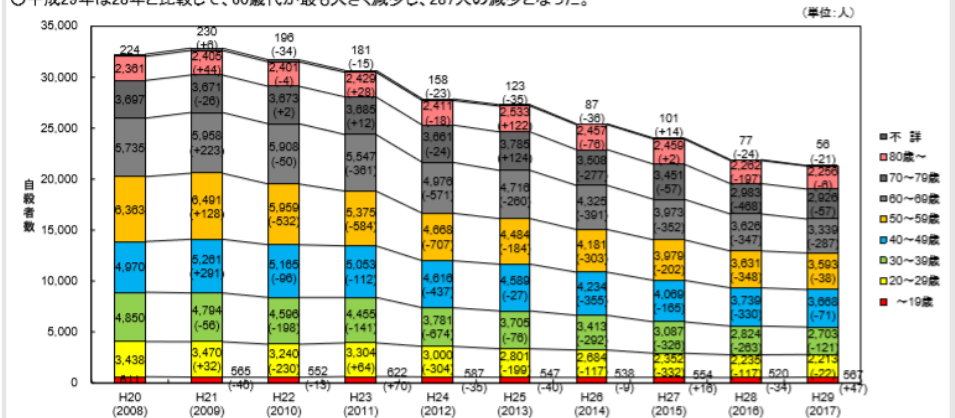
オジサン

フラリーマン

年齢階級別自殺者数の年次推移

○平成29年は28年と比較して、20歳以上の各年齢階級で減少した。30歳代は9年連続、40歳代、50歳代及び60歳代は8年連続で減少した。

○平成29年は28年と比較して、60歳代が最も大きく減少し、287人の減少となった。



注1)平成18年までは「60歳以上」だが、19年の自殺統計原票改正以降は「60~69歳」「70~79歳」「80歳以上」に細分化された。

注2)グラフ中の値は、上段が自殺者数、下段が対前年差である。

6

資料：警察庁自殺統計原票データより厚生労働省作成

引用：内閣府自殺対策推進室 平成29年中における自殺の状況

全体としては、8年連続で減少しているものの、**男性の自殺者数は女性の約2.3倍**。**40代の自殺者が最も多く、50代が次ぐ。**

“フラリーマン”

目白大学名誉教授で社会心理学者の渋谷昌三さんが、2007年に著書の中で、家庭を顧みず居場所を失い、ふらふらするサラリーマンの姿から名付けた。

しかし、時代とともに“フラリーマン”になる背景も変化。

「働き方改革」で、男性が家庭での居場所を取り戻そうとしても、共働きの増加に伴い存在感を増す女性に太刀打ちできず、居場所をあきらめてフラフラしてしまう」と渋谷さんは分析している。

フリーマンの少年時代



働く産業人の大量生産（金太郎飴、ガンダムのジム、グライダー型人間）

フレリーマンを取り巻く今の環境

働き方改革

イクメン・イクボス

消滅する業種

年金後倒し

女性活躍推進

定年延長



人生100年時代構想

日本のGDP世界ランク低下

大企業不祥事

AI

デジタルネイチャー台頭

不安や恐怖

仕事や会社そのものが無くなって、働き口がなくなるかもしれない
年金や医療保険が破綻し、死ぬまでお金がもたないかもしれない
このまま定年退職したら、出かけるところが無くなるかもしれない
一緒に遊んでくれる人もいないかもしれない。

社会的死と、家庭内死に見舞われるかもしれない
息吸って、吐いてるだけの毎日になるかもしれない
その後、ひとりで死ぬかもしれない

会社から社会へ放り出される中年男性



既存の解消方法

不安を直視したくないので、SNSやゲームアプリなどで逃避

職場の同僚に居酒屋で話をしてみたところ、
「そうだよな。まったく嫌になっちゃうよな」と
同感されるものの何ら進展せず、泡のごとく消えて何も残らない

現職の延長、周辺の主にテクニカルスキルを
書物などで学んで、安心した気になる

鎧を脱げずに、うまく遊べず、うまく学べず、
昭和教育の価値観を抱えたままやり過ごそうとしていないか？

解決したい課題・私のやりたい事

解決したい 課題

30代～50代社会人男性がこれまでの学校教育や職場で得た知見だけで、平成の次なる時代を、心豊かに過ごして行くにはどうも心もとない。
彼らが大人のふりをして、自分の奥底にしまい込んでしまった遊び心に気づき、目を向け、思い切ってさらけ出すことができる機会は、十分とは言えないのではないか？

やりたい事

「遊びの処方」を行うことによって暮らしの満足度が向上するかどうかの検証、提供価値の確立、実施。
まず、共同研究先を探し、調査、検証、プログラムの作成を行いたい。

提供イメージ



状況
ヒアリング

精査・提案

相談

受け答え



